



# 新発見を全国へ発表する場をめざします 「全国お城物語」オンライン講演会

江戸城天守を再建する会が定期的に開催している「全国お城物語」オンライン講演会に、近年発見された古文書や、最近の発掘によって得られた知見等が寄せられ始めました。この流れを大事にして、さらに太い流れにしてまいります。

## 駿府城

(静岡県静岡市)

駿府城は、輪郭式に本丸・二ノ丸・三ノ丸が配置されています。駿府城公園として整備されおり、本丸の天守台跡地部分の整備方針を決定するため、二〇一六年から発掘調査を始めました。その結果、大きな発見がありました。駿府城は徳川家康と関りが深いお城です。家康が天正期に浜松城から拠点を移しました。在城期間は天正一四年（一五六六年）から五年間でした。その後家康は江戸へ移り、二人の城主、中村一氏（豊臣系）、内藤信成（徳川系）をはさんで、大御所となつた徳川家康が慶長期に帰つてきました。二度目の在城期間は慶長一二年（一六〇七年）から一〇年間でした。家康はそれぞれの在城期間ごとに天守を建てています。このたびの天守台発掘調査の結果、慶長期の天守台は、天正期天守台を破壊してその上に築造されたものでし

松下氏講演・同一エリアに重なつて残つていることを  
発掘調査から発見。

### 天正期駿府城の天守台について

- 天正期駿府城の遺構(石垣等)を初めて検出
- 大規模な天守台
- 天守台の規模、構造(大天守台・渡櫓台・小天守台…連結式天守)
- 発掘調査成果と文献資料(『家忠日記』)の記録が一致
- 大量の金箔瓦(軒瓦、軒瓦以外の瓦)が出土=天守の屋根に使用
- 金箔瓦以外の瓦の出土=建物の違い、時期の違い
- 築城後、短期間で廃絶 → 同じ場所に慶長期駿府城を築城



## 高知城

(高知県高知市)

理事 近藤一郎



渡部氏講演：地震や火事に見舞われてきた江戸時代の高知城の災害史を古文書から発見。

多くの御城では、築城に際する様々な情報に関する一次史料が存在することが稀ですが、高知城の場合は幸い「御城築記（おしゃくつき）」と題する史料が残っています。これによつて江戸時代初めに築城された時の関係者の動きがつぶさにわかります。また、天守を遠州掛川城と同じ造りにしたいので最上階に高欄を設けるべしとの方針が書かれています。

高知城も火災や地震、津波、水害など災害の被害に悩まされています。それゆえ、それらを記録し

た古文書が多数残つておりますので、高知城の築城や、災害からの復興、城下町の整備等を古文書を実際に読みながら、お話しただきました。城下町が焼けても、防火体制の差で城内に類焼することがそれまでなかつたのですが、とうとう一七二七年（享保の大火）に被害が城内に及び、天守、御殿をはじめ場内のほんどの建物が焼けてしまいました。

そこで、まず幕府に被害状況が報告されて指示を仰きました。その際提出された被害報告リストによると、城内・城外で焼け残つたのは、追手門、武具蔵、証文蔵（幕府からもつた書類を保存する蔵）だけだったといいます。享保の大火で失われて、一七四九年に再建されたものが現在の天守です。二〇一五年に松江城天守が国宝に格上げされた契機が創建時の祈祷札の発見でしたから、高知城でも棟札等の搜索を市民に呼び掛けられています。

## 金沢城

(石川県金沢市)

金沢城では創建時にあつた天守が一六〇二年に落雷により焼失して以降、三階櫓で代用しました。また本丸御殿が一六三一年に類焼して以降、二ノ丸御殿を政務や行事の中心としていました。二ノ丸御殿はその後宝暦期（一七五九年）、文化期（一八〇八年）と火事による罹災を繰り返していました。その都度二ノ丸御殿を再建しています。

二ノ丸御殿再建を記録した主た

る二つの古文書を紐解きながら、文化期に行われた作業内容を蘇らせてくれました。高知城に続いて、史料からの再現ドキュメントとなりました。



### 文化期の二ノ丸御殿再建史料

#### 「御造営方日並記」

- ・藩士で造営奉行高畠厚定（700石、馬廻組頭兼公事場奉行）の職務日誌
- ・普請の進捗や組織、物資調達やそれに伴う人の動きが詳細に描かれる。
- ・文化6年（1809）正月～同7年6月にかけての記録

⇒金沢城研究調査室（現 金沢城調査研究所）  
で翻刻・刊行

### 【新史料】 文化期の二ノ丸御殿再建史料

#### 最近、あらたに御殿内装史料を確認

「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」  
(全4冊、金沢市立玉川図書館蔵)  
作者は文化期の再建事業で活躍した  
**御大工（のち御大工頭）井上庄右衛門**  
(文化八年〔1811〕正月に作成)

石野氏講演：加賀藩の政務や行事を行つた二ノ丸御殿の焼失からの再建ドキュメントを古文書を元に再現。



### 文化期の二ノ丸御殿再建史料

#### 「御造営方日並記」

- ・藩士で造営奉行高畠厚定（700石、馬廻組頭兼公事場奉行）の職務日誌
- ・普請の進捗や組織、物資調達やそれに伴う人の動きが詳細に描かれる。
- ・文化6年（1809）正月～同7年6月にかけての記録

⇒金沢城研究調査室（現 金沢城調査研究所）  
で翻刻・刊行

### 【新史料】 文化期の二ノ丸御殿再建史料

#### 最近、あらたに御殿内装史料を確認

「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」  
(全4冊、金沢市立玉川図書館蔵)  
作者は文化期の再建事業で活躍した  
**御大工（のち御大工頭）井上庄右衛門**  
(文化八年〔1811〕正月に作成)

石野氏講演：加賀藩の政務や行事を行つた二ノ丸御殿の焼失からの再建ドキュメントを古文書を元に再現。



## 全国お城物語 (2022年4~6月開催)

### 講師一覧

城郭名	講師	所属	開催日
駿府城	松下高之	静岡市觀光交流文化局 歴史文化課	4月20日
高知城	渡部 淳	高知県立高知城歴史博物館 館長	5月15日
金沢城	石野友康	石川県金沢城調査研究所 副所長	6月18日

【御造営方日並期】加賀藩士（七〇〇石）で造営奉行の高畠厚定の職務日誌です。普請の進捗や組織、物資調達やそれに伴う人の動きがわかります。たとえば材木だと、木の種類ごとにどこから調達したのかわかります。また、作業に関して藩主前田斉広の意向を細部にわかつてうかがっています。

二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」二〇一九年に図書館の資料整理から発見されました。文化期の再建が終わつた直後に作成されており、いわゆる再建仕様書です。たとえば、御殿の内外を飾つた一六五点の装飾道具がすべて、デザイン・寸法・材質・技法とともに描かれた図面を収録した巻が含まれています。

### グスクの特徴

グスクは12世紀から16世紀にかけて、村落の祈りの場=御嶽を中心に按司（豪族）の館が進化したものと考えられる。琉球列島には200~300のグスクが存在するといわれている。

- 沖縄のグスクには日本より200年以上早く高度な技術で曲線を描く高い石垣があった。(近江八幡市の觀音寺山城は日本最初の石垣といわれる16世紀前半築城)
- 中南部のグスクは加工しやすい琉球石灰岩で作られたが、今帰仁城は固い古生代石灰岩で作られた。
- 必ず御嶽がある。鹿城後も村落の住民は祈りをさげた。
- 石垣や城壁の一部にアーチ型の門がある。
- 塔はない。

講師は仕事の関係で一九八九年に沖縄（うちなー）の歴史と城（グスク）を紹介

浅井氏講演・沖縄の通史を語る中、日本の城郭と異なる役割を持っていたグスクを紹介

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に登録された沖縄のグスクは「城」を当てていますが日本の城

講師・塚本一夫 当会墨東支部長

江戸幕府に至るまでの江戸の歴史を紹介

平安中期の平将門の時代からはじまつた江戸通史は、後編では江戸幕府における大名統制まで話が進みました。大名統制であるという。「観える（まみえる）」であるから将軍に対する臣下の札を取ること。

「一国一城令」一六一五年に出来た一国一城令に対しても減少。一国を複数の大名が分割している場合に各大名ごとに一城。

江戸城かわら版 夏季号(第64号)

第一回会合 第事業構想委員会

日時：7月23日（土）午後2時

講師：三浦正幸・広島大学名誉教授（当会特別顧問）

場所：伊場仙ビル7階セミナー

参加費：会員無料

が複数の領国を有する場合は国ごとに一城。奥州は対象外であり、西国の外様大名が対象。毛利氏は周防・長門を領国としていたので岩国城・萩城を残せたが幕府に配慮して岩国城を破却。

【対庶民】幕府は庶民の政治への不満をそらすために寺社を利用して江戸上り（えどのぼり）と呼ばれた参勤交代に近い責務が課されました。

また2019年に焼失（五度目）した首里城正殿は二〇二六年の竣工をめざして工事中。

【外観】石垣や城壁の一部にアーチ型の門がある。堀はない。

【内観】石垣や城壁の一部にアーチ型の門がある。堀はない。

【構造】石垣や城壁の一部にアーチ型の門がある。堀はない。

【外観】石垣や城壁の一部にアーチ型の門がある。堀はない。

【内観】石垣や城壁の一部にアーチ型の門がある。堀はない。

【構造】石垣や城壁の一部にアーチ型の門がある。堀はない。</p

## 当会と江戸城天守 再建事業構想の歩み

再建運動の歴史を共有し、今後の課題を事業構想委員会で検討を重ねて行きます。

副理事長 寺村信行

## 当会の組織の推移

当会は一〇〇四年「江戸城再建を目指す会」の名称で、任意団体として発足し、一〇〇六年NPO法人としての資格を取得、二〇一三年名称を「江戸城天守を再建する会」に変更しました。

## 二〇二〇年に天守閣 オーブン!! 事業構想についての 諸問題と報告

二〇一三年、当会は、「江戸城天守再建の意義と可能性」と「天守再建事業の収支採算」について、それぞれ日本都市計画学会と日本経済研究所に諮問を行いました。

①世界をリードする国際都市として、東京に求められている

日本城郭建築の最高到達点である

日本の伝統と文化のシンボルとして、東京の歴史的まちづくりの中核となる。

は、耐震、耐火・材料調達共に可能であり、民間主導プロジェクトにより、新たな財政負担がなくとも、実現できる。

3. この報告を踏まえて、当会は、東京オリンピックが開催される二〇二〇年に、江戸城天守を築城オープンするとの目標を設定しました。

今何故江戸城再建か  
（天守再建の理念の策定）

1. 二〇一五年三月、当会は、  
ほぼ1年間にわたる論議の末、  
天守再建の理念をつぎのように  
取りまとめました。

日本の城郭建築の最高到達点である江戸城寛永度天守の再建は

## ①「観光文化立国・日本」の

## ②日本の伝統と文化に対する

新たな気づきを促し、将来を担う世代が、日本に生まれたこと、日本人であることには誇りと喜びをもって、日本の未来に取り組むことが期待されること。

正幸広島大学名誉教授により完成しました。当会は事業報告書を出版し、国会、各省庁はじめ全国図書館等広く関係機関に配布しました。

東御苑入場者数と  
インバウンド数の  
急上昇

## 二〇二〇年 築城オーブンは 二〇二〇年着工に ～事業構想の見直し～

二〇一五年一二月、二〇一三年以降の経緯を踏まえ、当会は、二〇二〇年築城オープンを二〇二〇年着工に目標を変更した上で、詳細かつ具体的な事業計画と事業収支のシミュレーション及びスケジュールを示した事業構想計画を策定しました。

「江戸城天守再建を中心とした事業とする歴史文化グランドデザイン基本構想」公表

二〇一六年一一月「江戸城天守再建事業と歴史文化まちづくり検討会は、当会の諮問に応えて前年一一月に当会が策定した「事業構想基本計画」をベースにした、天守再建の事業主体となる公益財団法人設立を目指した事業プロセスを示した事業構想を報告、公表しました。

## 「一〇一〇年度四千万 二〇三〇年度六千万」 の政府目標の設定

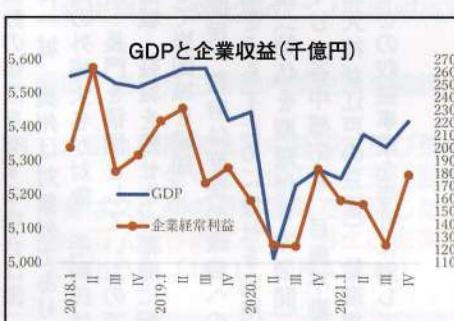
着工は二〇二〇年から  
二〇二一年に!!

二〇一六年三月、政府は、「明日の日本を支える観光ビジョン」を公表し、外国人観光客誘致の達成目標として、「二〇二〇年度に四千万人 二〇三〇年度に六千万人」と設定しました。

1. 二〇一八年三月、当会は、二〇一六年度以降の経緯を踏まえ、天守再建の着工目標を二〇二一年度に変更し、二〇一八年度を初年度として、二〇二〇年度までの三か年の中期事業計画

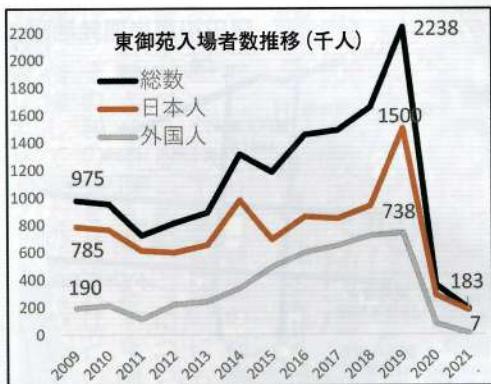
## 「江戸城寛永度天守復元調査報告書」の完成と出版

二〇一六年五月 天守再建の  
基礎となる江戸城寛永度天守復  
元調査報告書が、当会顧問三浦



## 収束の見えないコロナ禍 中期事業計画の蹉跌

二〇二〇年初頭から始まつたコロナ禍は収束の見えないまま現在に至っています。経済活動と企業収益の急激な低下は、建設事業会社設立に向けた企業の歩みを反転させ、インバウンド数と東御苑入場者数の壊滅的な



- 減少は、天守再建の事業主体となる公益財団法人設立への機運を一気に収縮させました。中期事業計画は3年目で蹉跌しました。
1. 収束の見えないコロナ禍が持続する中で、ウクライナ侵攻の地政学リスクが発生し、グローバル化が進展した世界経済情勢は大きな変容を迫られています。こうした環境の変化に対応して事業構想を見直すことが、当会の当面する課題です。
2. これまで当会が積み上げてきた数次にわたる事業構想の中でも、なお検討を要すべき課題（例えば事業収支採算）や、これまで積み残された課題（例えば、伝統と文化のシンボルとして、どのようなメッセージをどのように発信するか）を検討していく必要があります。これらの課題は、中期事業計画では、建設事業会社や公益財法人の設立の過程が検討するところが予定されていました。これら会社・法人の設立が直ちに期待できないのが現在の客観情勢です。そこで、当面当会が検討を積み重ね、環境の変化が予想される将来に備える必要があると思われます。（事業構想検討委員会での検討は隨時会員にご報告します）

## 事業構想の見直し

1. 収束の見えないコロナ禍が持続する中で、ウクライナ侵攻の地政学リスクが発生し、グローバル化が進展した世界経済情勢は大きな変容を迫られています。こうした環境の変化に対応して事業構想を見直すことになります。
2. これまで当会が積み上げてきた数次にわたる事業構想の中でも、なお検討を要すべき課題（例えば事業収支採算）や、これまで積み残された課題（例えば、伝統と文化のシンボルとして、どのようなメッセージをどのように発信するか）を検討していく必要があります。これらの課題は、中期事業計画では、建設事業会社や公益財法人の設立の過程が検討するところが予定されていました。これら会社・法人の設立が直ちに期待できないのが現在の客観情勢です。そこで、当面当会が検討を積み重ね、環境の変化が予想される将来に備える必要があると思われます。（事業構想検討委員会での検討は隨時会員にご報告します）

## 宮殿がつくりだす空間とそこに溶け込む自分との一体感にひたるひととき

パッキンガム宮殿。イギリス王室の公式の宮殿で、近衛兵交代式はロンドンの名物。



理事 近藤一郎

「その国を代表する世界の大都市には、ロンドンのパッキンガム宮殿、パリの凱旋門・ベルサイユ宮殿、北京の紫禁城、ニューヨークの自由女神などの歴史と伝統と文化の象徴というべきモニュメントがあります。」

東京にも、国の歴史と伝統、文化を代表するシンボル的な建物がほしくありませんか。

五月の初めにロンドンを訪れる機会を得たので、人々がロンドンのシンボルとどのように接しているのか、パッキンガム宮殿を見てきました。

宮殿前に到着したのが午後八時で日没三十分前だったのですが、まだまだ明るい。宮殿正面のフェンスの前を人がたくさん流れしており、立ち止まつては宮殿をバックに撮影をし



東御苑散策ツアーに参加された港ロータリークラブの皆さん。  
(ガイド・理事/黒木英俊)

人々はそれでもまったく構わないようです。フェンス際から宮殿正面の姿を見て、どっしり構えている姿に一体感を覚えているように見えました。

五月二四日、港ロータリークラブのメンバー九名の方が集まり東御苑散策ツアーオーを実施しました。大手門に集合してから、三の丸尚蔵館（閉館中）建設工事現場を横に見ながら、三の門、中ノ門、中雀門を通り、本丸に入りました。富士見櫓、富士見多聞、天守模型展示、天守台を見た後、二の丸庭園に向かいました。

まだ菖蒲は早く、数輪しか咲いていませんでしたが、赤いサツキがきれいに咲いていました。

皇居東御苑がこのように広くて、歴史的な建物も多くあることを初めて知った方もおられ、石垣の見事さに驚いておられました。

まだまだ東御苑をご存じでない方が多くおられます。天守の模型や天守台を見ていただき、「天守再建」を多くの方に賛同いただくようにしたいと思います。

皆様の周りの会員でない方に声をかけていただき、東御苑散策ツアーオーを企画してください。

新設する大手休憩所が完成した後は、大手門を入つたら左手に大手休憩所、右手に三の丸尚蔵館が設置されます。それらと旧本丸内施設がつながると、園内を散策しながら大手休憩所から天守模型展示館、天守台に至る順路が出来上がります。

これら整備の背景には、皇居東御苑の入園者数の増加があります。平成元年の年間約三九万人（うち外国人比率は約二一パーセント）から、令和元年の年間約二二四万人（うち外国人比率は約三三パーセント）まで増加しました。

その後はコロナ禍により減少しましたが、規制が緩和された後の入園者数増加を促進するため、三の丸修造館の拡充と大手休憩所を一体のものとして、令和八年度の全館開館をめざします。

なお大手休憩所では、皇居や江戸城の歴史を知りたい来訪者の要望に応えることのできる情報を探提供し、皇居を訪れる外国人に向けたビジターセンターの役割も果たします。

（近藤一郎）

官内庁は大手門近くにカフェを併設した休憩所を令和八年度に開設すると発表

## 港ロータリークラブの皆さんを東御苑散策ツアーオーでご案内

五月二四日、港ロータリークラブのメンバー九名の方が集まり東御苑散策ツアーオーを実施しました。

大手門に集合してから、三の丸尚蔵館（閉館中）建設工事現場を横に見ながら、三の門、中ノ門、中雀門を通り、本丸に入りました。富士見櫓、富士見多聞、天守模型展示、天守台を見た後、二の丸庭園に向かいました。

まだ菖蒲は早く、数輪しか咲いていませんでしたが、赤いサツキがきれいに咲いていました。

皇居東御苑がこのように広くて、歴史的な建物も多くあることを初めて知った方もおられ、石垣の見事さに驚いておられました。

まだまだ東御苑をご存じでない方が多くおられます。天守の模型や天守台を見ていただき、「天守再建」を多くの方に賛同いただくようにしたいと思います。

皆様の周りの会員でない方に声をかけていただき、東御苑散策ツアーオーを企画してください。

新設する大手休憩所が完成した後は、大手門を入つたら左手に大手休憩所、右手に三の丸尚蔵館が設置されます。それらと旧本丸内施設がつながると、園内を散策しながら大手休憩所から天守模型展示館、天守台に至る順路が出来上がります。

これら整備の背景には、皇居東御苑の入園者数の増加があります。平成元年の年間約三九万人（うち外国人比率は約二一パーセント）から、令和元年の年間約二二四万人（うち外国人比率は約三三パーセント）まで増加しました。

その後はコロナ禍により減少しましたが、規制が緩和された後の入園者数増加を促進するため、三の丸修造館の拡充と大手休憩所を一体のものとして、令和八年度の全館開館をめざします。

なお大手休憩所では、皇居や江戸城の歴史を知りたい来訪者の要望に応えることのできる情報を探提供し、皇居を訪れる外国人に向けたビジターセンターの役割も果たします。

# 黒田涼の江戸⑦ 東京歴史講座

第五回

# 明暦の大火と工業都市東京の誕生

人口急増により  
十七世紀半ばに  
土地不足が到来した

これまで「都市計画家」徳川家康の卓越した構想、その遺産の素晴らしさについてご紹介してきましたが、さすがの家康の構想も、死後四〇年ほども経つと限界が見えてきます。それは江戸の街の急速な拡大、人口の増加です。



今も残る横十間川。今は水路としては使われなくなり、岸辺は散歩道になっている。

したが、一七世紀も半ばになる  
とそれが窮屈になつてきまし  
た。すなづら江戸の人口は三〇

万人ほどになり 参勤交代の制度も整うにつれ武家屋敷の敷地が足りなくなってきたのです。

そこで起きたのが、当時の江戸市街を焼き尽くした江戸最大の大火灾（明暦の大火灾）でした。従来の歴史解釈では、この大火からの復興を契機に江戸は外堀まで、という枠を取り扱い、周囲に拡大すると共に隅田川東岸の本所・深川地区の開発が始まつた、としてきま

しかし家康ひいきの私として  
は、こうした事態も家康は「想  
定内」だったと思います。第二  
回で示した江戸の街の三つの發  
展方向は、江戸に拠点を定めた  
時点で自明のもので、縦構えが  
窮屈になつたら、埋め立て、隅  
田川東岸、山の手という方向で  
市街を拡大させるのは既定の方  
針だつたと思います。

今回は隅田川東岸について見  
ていますが、明暦の大火爆滅以降、

都市拡大は家康の想定内  
した。

# 黒田涼

作家・江戸歩き案内

兩国橋、千住大橋上り下流で最初に架はられた橋が兩國橋

江東区や墨田区を歩くと、「メント工業発祥の地」「機械製粉業発祥の地」「化学肥料創業記念碑」など、多くの工業化の跡を目にすることができます。また「鐘淵紡績発祥の地」「日本清紡創業の地」など初期の日本工業を支えた紡績業の大工場の跡もひしめいていたことが、土地図などを見るとわかります。

立地ました。近代的な大工場の建設には広大な平地が必要ですが、東京には都心とすぐ川を隔てた場所に絶好の工場用地が用意されていました。すでに水運路も整備済み。あとは資本を投下して工場を操業するだけだったのです。

これが明治維新以降の日本の近代化、特に工業化に大いに役

江戸幕府の土地計画が明治の発展を促進させた

を物資供給・物流拠点として整備を進めたのです。

両国橋を皮切りに隅田川には次々と橋が架けられます。今も残る豊川・大横川・横十間川などの水路が次々と開削され、物資集積地としての本所・深川地区の基礎ができます。幕府も所御蔵や木場、猿江材木蔵などを建設。さらに亀戸天神、富岡八幡、靈巖寺などの大寺社が幕府の後押しで開創し、門前町ができる都市としての基礎が作られていきます。幕府は東岸地域

これらの場所が湿地のままだつたら。水路もなく人も住んでいなかつたら。日本の工業化はこれほど急速に進まなかつたでしょう。



国技館、国技館や江戸東京博物館のあたりには幕府の米蔵が造られた。

## 和の心】を紐解く(その参)

あなたの心はどこにありますか？  
西欧の教え、神道、仏教の教えから  
解き明かされます。

（記紀）」や「十七条憲法」にも書かれている「和の心」についてお話をさせて頂きました。今回は、その和の心を日本人はどのように情操して来たのかについてお話を致しましよう。

詔勅の直靈 仙教の佛性

「思考」をはつきり分けて考えなければなりません。「貴方の心はどこにありますか?」と問われた時、多くの方が胸に手を置かれます。然し、それは「ハート」「つまり「感情」のもとであり、西欧人の考える「心」なのです。我が国でいう「心」は、丹田にあると言われますが、感情とは別に存在しているのです。記紀の中にも登場する「奇魂」「荒魂」「幸魂」「和魂」の四魂(四つの魂)を司りその調和を計算るとされる「直靈」。そして仏教では「悉有佛性」と言い「人には本來佛性が具わっている」という教えがあります。この「直靈」「佛性」は同じ事を表しておりますが、この二つが正しく調つたところに生ずる心が「和の心」に外なりません。記紀や神道には、教義や教せん。



日輪寺住職  
士藏和生

きつけとなつたとされる言葉  
がこの「悉有佛性」なのです。「本  
來佛性が人に具わつてゐるのな  
らば、何故修行が必要なのか」と  
いう素朴な疑問から、彼の凄ま  
じい修行の日々が始まるので  
す。道元禪師は多くの著名な言  
葉を残されておられます、そ  
の一つに次の文言が有名な「正  
法眼藏（現成公案）」に記されて  
います。

いきます。西洋の「自分」に対しても道元は「自己」と残されていますが、この「自己」は単なる自分であります。冒頭の「悉有佛性」つまり人間は生まれながらにして佛性（佛心・ほとけのいのち）を具えている、佛心が与えられているという真実が大前提に置かれていて、

「和の心」　西洋の概念を超える

明治の神仏判然令のもと、神社とお寺が分割された事で、こうした教えが正しく伝わらなくなりました。特に戦後は、心を情操する事よりも、経済的発展の事しか考えなくなり、子供達にも正しい躰が施されなくなりました。その結果、自己ではなく、自分中心の考え方が蔓延し、西洋の「無知を知る」事すら認識できておりません。折角、我が国には古来から伝えられてきた西洋の概念を超える事の出来る「和の心」の世界観があるにも拘らず、そうした智慧を学ばない世の中となつてしましました。

遅きに失した感は否めませんが、乱れた世の中を立て直す為には、今一度原点に立ち返り、禪僧は禪の修行に打ち込み、在家の皆様は作法を学び実践する事によつて、「和の心」を具えた日本人を創り出す事が大切だと思ひます。時間が掛かる事ですが、是非力を合わせて達成できればと思います。何をすれば良いのかを知る為に必要な大切な作法について次号からお話をさせて頂きましよう。

り「感情」のもとであります。西欧人の考へる「心」は、丹田にあると言われますが、感情とは別に存在しているのです。記紀の中にも登場する「奇魂」「荒魂」「幸魂」「和魂」の四魂(四つの魂)を司りその調和を計算るとさうの「直靈」。そして仏教では「悉有佛性」と言い「人には本來佛性が具わつてゐる」という教えがあります。「この「直靈」「佛性」は同じ事を表しておりますが、この二つが正しく調つたところに生ずる心が「和の心」に外なりません。記紀や神道には、教義や教せん。

典がありませんので、日本人に具わっているとされる「直靈」或いは「佛性」の存在に気付く為には、佛道修行、特に禪の教えを紐解き行を重ねる必要があります。

## 何故修行が必要なのか

私が住職を勤めさせて頂いて  
いるお寺は「曹洞宗」の禪寺です  
が、その開祖は「存じの道元禪  
師。道元は多くの書物や教えを  
残されましたが、そもそも道元  
禪師が仏道修行に深く入られる

いる事を連想されるかも知れません。」の言葉は「自分の分限を怠るな」と謂わば、「身のほどを知れ」と言う意味でしたが、後に「自分自身の精神を探求しようとすること」と解釈され、「人間は自分の無知を知ることが、知る事のはじめである」と言う信条を掲げたソクラテスによつて理解されました。

自分と自己の違い

て坐禅する事が中心ですが、実は生活の全てを坐禅するが如く、正しい作法を整える事であると私たちは教えられて参りました。

「ご飯茶碗が左、お味噌汁のお椀は右側にお膳立てします。これは、永平寺で今も行われている道元禅師の教えから生まれた修行作法を日本人は真似をした事に由縁します。日常生活には、和の心を情操する上で大変重要な「作法」が全てに渡り残されていりますが、それらは全て「自己」をならぶ為の修行の形であり、「和の心」を情操する上で欠かすことの

過ぎに失した感は否めませんが、乱れた世の中を立て直す為には、今一度原点に立ち返り、禪僧は禪の修行に打ち込み、在家の皆様は作法を学び実践する事によつて、「和の心」を具えた日本人を創り出す事が大切だと思います。時間が掛かる事ですが、是非力を合わせて達成できればと思います。何をすれば良いのかを知る為に必要な大切な作法について次号からお話をさせて頂きましよう。

自分と自己の違い

て坐禅する事が中心ですか、実は生活の全てを坐禅するが如く、正しい作法を整える事であると私たちは教えられて参りました。  
ご飯茶碗が左、お味噌汁のお椀は右側にお膳立てします。これは、永平寺で今も行われている道元禅師の教えから生まれた修行作法を日本人は真似をした事に由縁します。日常生活には、和の

過ぎに失した感は否めませんが、乱れた世の中を立て直す為には、今一度原点に立ち返り、禪僧は禪の修行に打ち込み、在家の皆様は作法を学び実践する事によつて、「和の心」を具えた日本人を創り出す事が大切だと思います。時間が掛かる事ですが、是非力を合わせて達成できればと思います。何をすれば良いのかを知る為に必要な大切な作法について次号からお話をさせて頂きましよう。

# 歴史に残る名城の天守

三浦正幸

広島大学名誉教授  
当会特別顧問

## 三期に及ぶ 築城工事と焼失

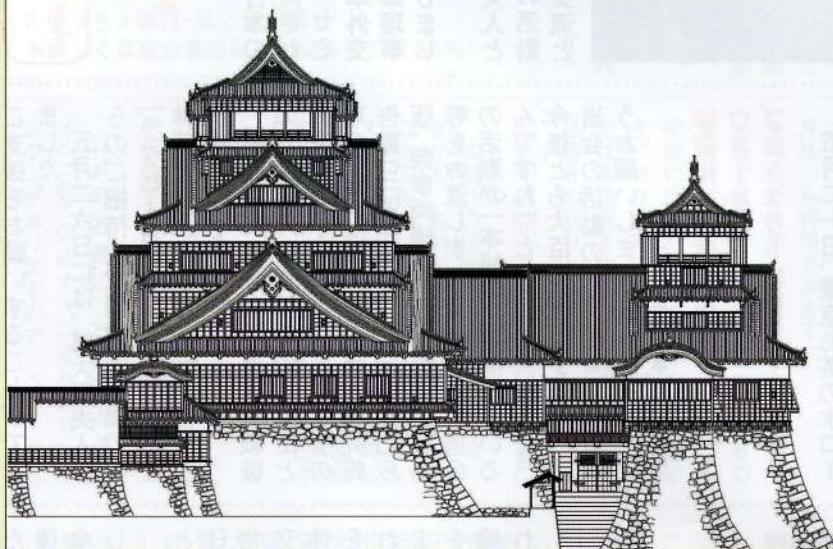
熊本城は、豊臣恩顧の大名加藤清正が三期に分けて普請した大城郭である。天正十六年（一五八八）に清正が秀吉から肥後半国十九万石余を与えられ、第一期普請として、石垣を築き天守を創建した。その当時の熊本城（当時は隈本城と書いた）は、現在の茶臼山の地ではなく、南西に八百メートル離れた古城（現在は高等学校の構内）に所在した。

最上階の六階（五重目）は、三間四方の部屋（上段の間）を中心にして、五重目屋根は下重とは棟方向を変えて入母屋破風を一階の平側（東・西面）に向けており、古式であり格式が高かった。六階の南・北面には四畳大の部屋を突き出して唐破風造の屋根を架け、そのうち北側室を階段室としていた。突出部を除いて、半間幅の入側が廻つており、それを加えて、六階は四間四方となる。さらに入側の外側に半間幅の縁側が廻つていた。この縁側の外側に雨戸が引かれ、隅部には戸袋が造られていたが、こうした雨戸は慶長期にはなく、後世の改造であったと考えられる。当時は室外の廻縁であつて、寛永九年（一六三二）加藤氏改易以降、細川氏（もと小倉城主）が城主となつた後に廻縁の縁先に軒支柱を立てて室内の縁側に改造されたようである。小倉城天守の最上階に倣つて改良されたものと考えられる。なお、記録によると、二階・三階・六階には障壁画があつたといい、書院造殿舎の面影を残す、安土城以来の正統派天守であった。

外壁は下見板張りで、格子窓は一間幅とし、突上戸を吊つていた。一階を張り出す太い腕木（土台の先端を突き出したもの）は防火のために漆喰の塗籠とされ、さらに雨避けのために小さな腰屋根が掛けられていた。島充氏によると、石垣天端上には、忍び返しの剣先が小天守と同様に並んでいた。

望楼型の五重天守では、一階（一重目）と二階（二重目）を同

大に造り、二重目屋根を基部とするのが常であるが、熊本城では一重目屋根を基部としている。それについては、一階が天守台より張り出しているからであろう。その張り出し部の直上に二重二階の外壁を載せるのは、構造的に危ういため、二階を縮減させたようで、同様の張り出しをもつ萩城・高松城の天守でもそのようになっていた。また、熊本城天守では、三重目も入母屋造としており、一重目と合わせて三段積みの望楼型であつて、岡山城天守が類例に



熊本城天守・小天守復元図（島充氏復元）

挙げられるも、特別な構造である。熊本城の初代天守と考えられる三重五階の宇土櫓も三段積みの望楼型であつて、しかも大きな千鳥破風の配置も全く同様である。したがって、三重五階の初代天守の構造をそのまま拡大して五重六階の天守としたと考へられる。

**虎ノ門市場**  
毎日、幸せごはん。

月～金曜日  
午前11時00分・夕方17時10分

テレビ東京・BSテレ東 毎月1回スペシャル番組を放送中! <https://www.toranomon-ichiba.com/>

# 会員のむろば

投稿、提案、当会イベント情報、  
支部活動報告などを随時掲載します。

天守再建実現を願い入会しました  
大堀卓（東京都）

以前、某ケーブルテレビ局が主

催する江戸を巡るツアーに女房  
と共に参加し、VR（バーチャル  
リアリティー）による日本橋周辺  
のかつての江戸の再現映像を観  
たり、その当時に食されていたで  
あるう食材等を用いた昼食を頂  
いたりしました。ツアーの最後に

皇居内に残る天守台を巡り、VR  
で江戸城天守閣の再現映像を観  
て、このような天守閣が再建でき  
たらどんなに素晴らしいだろう  
と感じたのを思い出します。その  
時の思いが本当に実現する事を  
願い入会させて頂きました。

江戸城になぜ天守がないのか  
永田禮志郎（東京都、一四歳）

城の事についてはほとんど無  
知ですが、お城の景観や歴史は大  
好きです。大阪城や名古屋城など  
は復元されビルが建ち並ぶなか  
で並々ならぬ威厳があります。で  
かも二六〇年もの間、国を見守つ  
てきた中心である江戸城に何故天  
守閣がないのだろうかと、以前か  
らずっと疑問に思っていました。  
数々の戦いが繰り広げられてき  
た日本の内で、戦国時代から第一  
次世界大戦終戦までの間に二六  
〇年という泰平の時代を創つたこ  
シンボル江戸城が再建される  
とを願つて入会しました。

ご支援をお願いすることができます。

五月二六日には、林大臣夫人か

らのご招待で、国立競技場での

「ラグビー日本リーグ決勝戦」を

林芳正外務大臣と一緒に観す

ることができました。

私は東三郎当会理事は観戦後

の二次会の会食に参加し大臣と

政界のリーダーとして期待され

ている林芳正外務大臣のセミ

ナー「ウクライナ情勢と日本外交

の展望」に、当会の島田昌幸理事

長と私（初鹿彰信）が参加しまし

た。

そこで、林裕子外務大臣夫人と

河野恭子秘書官に江戸城の活動

の近況をお伝えし、今後の交流と

の交流の機会も得たので、当会の

理念、江戸城天守復元調査研究報

告書（三浦先生著）、江戸城かわら

版、衆参両議院議長への請願署名

等をお渡しました。大臣より当会

の活動が「本格的に展開している

今後とも大臣との交流を継続し、

当会の活動のご支援を頂けるよ

うお願いしました。

（文／専務理事・初鹿彰信）

神田川・日本橋川清掃と  
ウォーキングクリーン  
プロジェクトに参加しました



ラグビー日本リーグ決勝戦を観戦。写真右から林大臣、  
当会初鹿専務理事、東理事。

「ウクライナ情勢と日本外交の展望」セミナーに  
島田理事長、初鹿専務理事が出席。



ラグビー日本リーグ決勝戦を観戦。写真右から林大臣、  
当会初鹿専務理事、東理事。

五月二一日、東京お茶の水口一  
タリークラブ、神田佐久間町一丁  
目町会、東京都屋形船協会主催の  
第三回プロジェクトが佐久間町  
児童公園で行われ、当会高山肇理  
事の誘いで、理事・支部長九名が  
参加しました。樋口高顕千代田区  
長が挨拶に来られ、児童公園の花  
壇の花植えに参加されました。

当会メンバーは開会セレモ  
ニー、花壇の花植えを見学し、そ  
の後、ロータリークラブの皆さん  
と屋形船クルーズに参加しまし  
た。クルーズ航路は神田川の和泉  
橋—万世橋—お茶の水橋—水道  
橋—飯田橋—堀留橋（西神田）間  
往復で、約一時間ほどの乗船でし



水道橋から左折、首都高速池袋線下を進む。  
高架が豪雨の雨除けになってくれていた。



参加者に挨拶される千代田区長。  
区民のイベントに快く顔を出されている。

た。出発時は小雨でしたが、出航  
後まもなく豪雨になり、船首では  
傘で雨除けするほどで景色を樂  
しむ余裕はありませんでした。  
しかし、おかげで同乗の皆さん  
との懇親ができ、さらに神田川、  
日本橋川が観光船だけでなく、今も  
物資運搬やごみ処理の船が行き  
交う重要な水路であったことを  
体感し、江戸時代から都市の生活  
を支え、江戸が「水の都」ともいわ  
れたことを実感することができ  
ました。神田川、日本橋川の水辺  
をきれいにしたい、という活動の  
輪が広まっていくことを願わさ  
れました。（文／理事・包原誠）

# NSS 日経工産株式会社

## 江戸城天守を再建する会 入会案内



364年前に焼失した江戸城天守を、東京のシンボルとして甦らせたい。そんな思いを共有する人たちが集うNPO法人です。2006年NPO法人設立。当会主催の各種イベントや講演会のご案内をするほか、会報『かわら版』(年4回)をお届けします。

会長：太田資暁（太田道灌公18代子孫）  
理事長：島田昌幸（テレビ東京特別顧問）  
年会費：  
正会員（個人）10,000円  
正会員（法人）100,000円  
賛助会員（個人）3,000円  
賛助会員（法人）50,000円

### 入会手続（以下の方法でご会費を入金ください）

- 1 ホームページ（クレジットカード）
  - 2 ゆうちょ銀行・払込取扱票
- ▶詳しくは当会事務局へお問合せください。

## 事務局 からの お知らせ

「請願署名」に  
ご協力ください



当会は本年度より天守再建への「請願署名」を、衆参両院議長宛ての「請願署名」活動に切り替えていくことを三月の理事会で決定しました。本号（夏号）巻頭ページで、その主旨と経緯を島田理事長が報告しています。

今まで以上に会員全員の「協力」が必要です。会員の皆様には、「家族、ご友人の皆様にもこの主旨を説明し、請願署名にご協力くださるようお願いしてください。

### 新規会員の勧誘にご協力を

当会の活動は主として正会員、賛助会員の会費によって運営されています。会員お一人一人が新規会員勧

誘にご協力ください。

認定NPO法人に認定された当会への寄付金は税の控除が受けられます。どうぞ、優遇措置を利用してご寄付にご協力ください。

昨年一二月六日に東京都から当会

は認定NPO法人に認定されましたので、個人法人にかかわらず直接当会にご寄付いただくことにより、税制上の優遇措置が受けられます。ぜひご利用ください。詳細は当会のホームページで「寄付」の欄をご覧ください。

### 年会費納入法

◆年会費カード決済



ント等の情報をお届けします。オンライン講座を視聴出来ます。画面にカーソルを合わせてクリックすれば、三浦正幸先生の講座や江戸城サロンなど、無料でご覧いただけます。お送りしています。「協力のほどお願い申し上げます。

てみてください。今まで開催したオ

ンライン講座を視聴出来ます。画面にカーソルを合わせてクリックすれば、三浦正幸先生の講座や江戸城サロンなど、無料でご覧いただけます。お送りしています。「協力のほどお願い申し上げます。

てみてください。今まで開催したオ

ンライン講座を視聴出来ます。画面にカーソルを合わせてクリックすれば、三浦正幸先生の講座や江戸城サロンなど、無料でご覧いただけます。お送りしています。「協力のほどお願い申し上げます。

### 「かわら版」への広告募集

本誌への広告は、法人個人を問い合わせません。名刺広告は税別一萬円、その他広告は税別三万円（となつてます）。法人会員の皆様には入会時に法人の広告を掲載させていただきます。詳しくは事務局にお尋ねください。

- 当会ホームページから
- 公式YouTubeが見られる
- ことをご存知でしたか？

HPの右側に、右図のようなYouTube公式チャンネルのリンクボタンがありますので、クリックし



〒101-0065

東京都千代田区西神田 2-5-7-505

E-mail=info@npo-edojo.org

※「かわら版」への投稿・提案、  
お問合せは、事務局宛に  
郵便・FAXまたは  
メールにてお願いします。



環境とDXをビジネスの力に変え、

未来のライフスタイルを描く。

再生可能エネルギーの取り組みも、

デジタルを活かした感動体験も、

地域に愛されるまちづくりも。

すべては一人ひとりの

ウェルビーイングのために。

私たちはグループが展開する

多様なグリーンの力を融合させ、

新しい価値を創造し続けます。

誰もが  
自分らしく  
輝ける  
未来へ

WE  
ARE  
GREEN

当社グループは、「中期経営計画2025」「環境経営レポート」「DXレポート」を発表しました。長期ビジョン「GROUP VISION 2030」に基づき、  
国内事業会社で最速となるRE100の達成<sup>※</sup>や、ZEB/ZEHの100%導入、OMO推進などの目標に取り組みます。



※業界に先駆けて再生可能エネルギー発電事業に取り組んできた東急不動産は、当初の目標を前倒して2022年のRE100達成をめざします。

 東急不動産ホールディングス

東急不動産 | 東急コミュニティー | 東急リバブル | 東急住宅リース | 学生情報センター



江戸城かわら版 夏季号 Vol.64 令和4(2022)年7月10日発行 発行所／認定NPO法人江戸城天守を再建する会  
発行人／島田昌幸 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7-505 TEL.03-6423-1882 FAX.03-6423-1897  
Mail = info@npo-edojo.org URL = http://npo-edojo.org Facebook = http://www.facebook.com/npoedojo